

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇しておりました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。今シーズンは、50 週から 5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でした。

2020 年第 9 週の定点当たり報告数は 4.77（患者報告数 23,605）となり、前週の定点当たり報告数 6.12 より減少しました。5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でした。

都道府県別では北海道（13.79）、石川県（10.38）、大阪府（9.80）、岩手県（7.61）、愛知県（7.57）、京都府（7.02）、兵庫県（6.77）、奈良県（6.71）、岡山県（6.54）、沖縄県（5.83）、三重県（5.71）、滋賀県（5.21）、の順となっていました。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近の 5 週間

(2020年第5週～2020年第9週)ではAH1pdm09(72%)、B型(27%)、AH3亜型(1%)の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>)をご参照ください。

○2019-2020シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況(長崎県感染症情報センター報告より)：

2020年第9週(2/24-3/1)のインフルエンザ報告は、長崎市(2.71)、長崎県(3.09)で、第8週(2/17-2/23)長崎市(4.76)、長崎県(4.64)と比較すると、長崎市、長崎県ともに減少しました。

いずれも流行レベルの指標1を超えておりました。50週以降の報告数が10以上(注意報レベルの流行)となっておりましたが、6週までで注意報レベルの流行がおわりました。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル(1以上)となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。以後、流行レベルを維持しています。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。今シーズンは50週から6週(2/3-2/9)まで報告数が10以上(注意報レベルの流行)でした。今後も注意が必要な状況が続いています。

(長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変)

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。